

令和8年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間) 最終)

呉中央中学校区 校番13 呉中央中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	④ 生ききる根っこを育てる「豊かな学び」の創造	④ 「主体的、対話的で深い学び」の実現と基礎・基本の定着を図る。	「授業の中で『思考し表現している』という項目に肯定的な回答をした生徒の割合は90%で目標値の90%を達成することはできた。昨年度の下半期の結果は93%であったので減少傾向である。 総合的な学習の時間についての「総合的な学習の時間の学習を通して、身近な人や地域、社会のために役立つことができた」というアンケート項目に対する肯定的な回答の割合は90%で目標値の85%を上回っている。昨年度に引き続き地域貢献を意識した授業づくりができています。 「学力調査・定期試験(国・数・英)における通過率30%以上の生徒の割合」は92%で目標値の90%を上回った。特に学力調査(全国学力・学習状況調査)において93%と高い結果を残すことができた。 「各学年の家庭学習目標時間の達成率の割合」は65%で目標値の70%を下回った。目標値の70%を達成しているのは9学年のみとなっている。	継続して学園授業スタイルに基づいた探究的な活動や思考過程の工夫による授業改善をさらに進めるため、授業で思考・表現する場面を意図的に設定していく。 学園フェスタに向けての取組において、探究的な活動を行うことができた。今後も探究的な活動や思考を促す発問を積極的に取り入れながら地域貢献を意識した授業づくりをしていく。 今後も、各教科の授業や家庭学習において、Qubenaを効果的に活用し、各自の学力に応じた最適な学習ができるよう支援していきたい。 呉中央スタンダードや試験計画表等を活用して、教師が生徒の家庭学習の進捗を把握し、適切な指導を行っていく。
**	④ 生ききる根っこを育てる「豊かな生き方」の創造	④ 「自己指導能力」を高める。	「あいさつ」「返事」「時間」「掃除」に関するアンケートについて、肯定的な回答をした生徒の割合は、それぞれ94.8%、100%、96.5%、96.1%であり、全体の平均では約97%であった。目標値が95%なので目標を上回る結果となった。4つの項目のうち、「あいさつ」の項目のみが目標値を下回ったが、昨年度末よりも0.5ポイント上昇している。 「自分には良いところがある」と思っている生徒の割合は87.4%で、目標値の90%を下回っているものの昨年度末より1.9ポイント上昇している。様々な行事での役割や学校生活での係の仕事などで肯定的な評価を続けてきた結果と考える。	基本的な生活習慣に関わる指導を、あいさつに力点を置きながら、生徒の主体性を大切にして、引き続き行っていく。生徒と教師の信頼関係構築や集団づくりに努め、生徒が安心して過ごせる環境をつくる。また、個人面談の機会を確保する取組を継続し、生徒の情報を細やかに受け取ることで、生徒とのつながりをより深めていく。 今年度も学園フェスタや学園音楽発表会等の行事を予定しているが、それに加えて異学年交流なども積極的に行い、生徒が活躍できる場を増やすことで、それを自尊感情を高める機会としていく。
*	④ 生ききる根っこを育てる「しなやかな体」の育成	④ 基本的生活習慣の定着と体力・運動能力の向上を図る。	「三点固定ができています」と回答している生徒の割合は73.2%で、目標値の80%を下回っている。特に7年生が65.4%と大きく下回っている。中学生になり、勉強や部活で生活リズムが変化したことが原因と考える。 8年生の新体力テストの結果、昨年度より向上した生徒の割合は男子が97.1%、女子が90.5%、男女合計で93.5%で、男女ともに目標の80%を上回った。ただ、女子50m走では、昨年度より向上した割合が65.2%と、種目や性別によっては課題が見られる。また、生徒アンケートの結果からは、運動する生徒としない生徒の二極化が見られた。	呉中央スタンダードに記入する三点固定に関する記述を担当が細やかにチェックし、そこにコメントを入れる取組を継続して行っていく。また養護教諭のメディアコントロールに関する健康相談結果も引き続き活用しながら、状況の把握とそれに対する指導を運動させていく。 体育の授業導入部分での体力づくり運動を取り入れる。昼休憩ボールの貸し出しを引き続き行う。さらに、運動する機会を増やすために、クラスマッチ等を実施する。
	④ 業務改善を進め、元気で明るい職場を実現する	④ ・生徒と向き合う時間を確保する。 ・長時間勤務の縮減を図る。	「生徒と向き合う時間が確保されている」と回答した教員の割合は77%で、目標の80%を下回った。背景には、多忙な校務等に追われ、生徒と向き合う時間を十分に確保できない現状がある。 また、時間外勤務が月45時間以下の教職員の割合は67%にとどまり、目標の70%を下回る結果となった。月別では、年度初めの4月と期末試験が実施される6月に時間外勤務が多くなる傾向にある。さらに、生徒指導への対応から、複数の教員が夜遅くまで在校せざるを得ない状況も一因と考えらえる。	「生徒と向き合う時間」の確保と「長時間勤務の縮減」は表裏一体であり、抜本的な業務改善が進まない限り解決は困難である。個人の努力に頼るのではなく、学校全体で取り組んでいく。まずは1学期末に教職員が考えた業務改善についてのアイデアを参考に、2学期からできるものを1つでも実施していきたい。さらに、今後導入予定の自動採点システムの利用や、AIを活用した資料の作成等により、業務改善を進めていきたい。
	④ いじめ・安全な学校生活の確保と信頼される学校づくりの実現	④ いじめを絶対に許さない生徒の育成を図る。	「いじめは絶対に許されない行為であると思う」という項目について、「思う」と回答する生徒の割合100%を目標としていたが、結果は99%であった。「思わない」「まったく思わない」と回答した生徒がそれぞれ1名いた。状況によりいじめは許容されると考える生徒がいるものと思われる。	アンケート結果から、いじめが許容されると考える生徒がいることを念頭に置いた指導が必要である。なぜいじめが絶対に許されないのか、「道徳の授業」や日々の生活での指導を通して生徒の心に訴える指導を続けていく。また、「いじめ撲滅キャンペーン」等を通して、いじめを許さない風土を学校全体に醸成していく。